

2008年度 第86回 関西学生サッカーリーグ（後期・第7節）

11月2日（日） 大阪長居第2陸上競技場

第1試合 関西大 vs びわこ大

勝負の恐さ、一瞬のプレーがゲームの明暗を分け、びわこ大は笑い、関西大は泣いた。ロスタイムに入ってもスコアレス、ドローかと思われた時、びわこ大の左サイドからのクロスがゴール前を抜けた。追う関西大GK①児玉剛、びわこ大MF 34 浅津知大。飛び込んだGK児玉の手が浅津の足を引っ掛けた痛恨の反則。関西大の不運だった。土壇場で得たPKをびわこ大FW⑩新中剛史が慎重に決め、びわこ大は貴重な勝点3を手に入れた。しかし関西大に罪はない。全力を尽くして戦った結果なのだから。

Vを狙うには両校とも絶対に落とせないゲーム。立ち上がりから緊迫した競り合いが続いた。しかし、中盤での激しさがゴール前で極端にペースダウンするシーンが再三見られた。両校とも慎重すぎるほどのゲームの進め方が優先したからか、ここという場面での突破力、積極さを欠いた。前半は関西大、後半はびわこ大がゲームの主導権を握った感じだったが、両校とも守りが攻めを上回った様相を呈した。その中で唯一のチャンスがPKだった。

（文：関西学連）

関西大 0 $\left\{ \begin{array}{c} 0-0 \\ 0-1 \end{array} \right\}$ 1 びわこ大

得点（アシスト）者
89分 10 新中

第2試合 阪南大 vs 姫獨大

阪南大 5 $\left\{ \begin{array}{c} 4-0 \\ 1-0 \end{array} \right\}$ 0 姫獨大

得点（アシスト）者
12分 45 宮脇（16 平野）
24分 43 棚橋（14 東）
29分 4 吉川（16 平野）
38分 43 棚橋（14 東）
86分 46 武井

2試合でゴールを量産している首位・阪南大と、苦境に立たされた姫獨大の対戦。この試合、またしても圧倒的な決定力の違いを見せ付けたのは阪南大だった。前半12分、MF⑩平野洋二郎が左サイドを果敢に突破し上げたクロスにFW 45 宮脇達樹が飛び込み先制点をあげる。このゴールを皮切りに、さらに2点を追加。「東→棚橋のホットラインができてきた」と阪南大・須佐徹太郎監督が話すように、MF⑭東浩史が姫獨大の間延びしたバイタルエリアを狙い、ふわっと浮かせたボールでFW 43 棚橋雄介の4試合連続弾をアシスト。前半だけで4-0と完全に試合を決めてしまった。

後半は「上を向いてできた」（姫獨大・GK家木大輔主将）と話すように、姫獨大は中盤をやや下げ守備を修正。またFW 20 松本祥吾が強烈なミドルシュートを放つなど、反撃の機会をうかがっていたが、統率された阪南大の守備陣を打ち崩せず、ロスタイムには阪南大が1点を追加し、2試合連続5-0のスコアで首位をキープ。阪南大は主力が怪我で戦列を離れても変わらず結果を残し、選手層が厚いことを証明した。

（文：フリーライター 久住 真穂）

11月3日（月・祝） 大阪長居第2陸上競技場

第1試合 同大 vs 大院大

試合前に、同大の望月慎之監督からは、「ショートパスを駆使した攻撃サッカーを見せませう。」という言葉。大院大の藤原義三監督からは、「順位を考えると、勝ち点3にこだわって攻めます。」という意志をハッキリと伝えられた。結果的に、互いの攻めの姿勢が9つのゴールを生むことに繋がる。

大院大は、主将・馬場悠の負傷もあり、CBの⑨岡村和哉をFWにコンバート。これが的中し、岡村自身が2得点を叩き出し、加えてMF⑦加藤健太も2得点。攻めの部分では申し分なかった。しかしバランスが崩れ、5失点してしまう。確かに、同大MF⑥出崎升浩の正確なブレイスキックや、MF⑩楠神順平のパス、FW⑨松田直樹の決定力という個人技は素晴らしかった。しかし、その個人技を披露させてしまったのは、大院大の組織として、個人としての守備に焦りがあったからである。卓越した技術を持つ同大の選手をフリーにさせる場面が目立ち、守備は後手に回り続けた。

勝った同大としても、望月監督を始め、選手・スタッフも「ウチらしい展開だけど。」と苦笑い。当然満足は出来ていなかった。それぞれに思惑がありながらも、結果として、勝ち点3は同大。大院大は残留というプレッシャーを強く感じる段階に入ってしまった。

（文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ）

同大 5 $\left\{ \begin{array}{c} 2-2 \\ 3-2 \end{array} \right\}$ 4 大院大

得点（アシスト）者	得点（アシスト）者
12分 19 安川（6 出崎）	34分 9 岡村
42分 9 松田（10 楠神）	38分 7 加藤
57分 9 松田（10 楠神）	64分 9 岡村（5 畑中）
67分 10 楠神	73分 7 加藤
87分 6 出崎	

第2試合 関学大 vs 立命大

関学大 1 $\left\{ \begin{array}{c} 0-0 \\ 1-0 \end{array} \right\}$ 0 立命大

得点（アシスト）者
88分 28 阿部（11 桑原）

静かに立ち上がり、膠着し続けていた試合が、急変するキッカケになったのは前半23分。関学大MF 30 桑野裕士が、この試合2枚目のイエローカードを受け、退場になってしまう。俄然勢いの出た立命大が押し込み始めるが、まだ試合序盤という事も手伝い、関学大は運動量を上げて対応。前半は、数的な有利・不利は露骨には反映されなかった。

しかし、後半からは、関学大が自陣に釘付けになる。立命大のサイドアタックと、連続するセットプレーを必死に弾き返すことで精一杯。なかなかカウンター糸口も見つからない。何せ立命大のCKの際には、関学大の10人全員がペナルティエリアに入っているのだから、前線で拾う選手が居ない。攻め手が無くて当然である。

ただし、関学大も闇雲に籠城していたわけではなかった。「相手のストロングポイントは左サイド。そちらからの攻撃は封じるように考えていた。」（FW⑩桑原透記）という狙いが奏功し、立命大の攻めを右サイドに限定させていた。立命大としても動き辛かった。攻め続けているのだから、無理に弄る必要は無く、「バランスを保って勝負し続けた。」という米田隆監督の意図も当然と言える。スコアレスドローが濃厚かと思われた終了間際。関学大が乾坤一擲の攻め。桑原が強引に立命大のゴール前までドリブルで突進しシュート気味のクロス。GKが触ってこぼれたボールをFW 28 阿部浩之が押し込む。まさに一発のみで、関学大がインカレ戦線に生き残った。

（文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ）

11月3日(月・祝) 鶴見緑地球技場

第1試合 近畿大 vs 京産大

DF1人、ボランチ2人が出場停止と不安を抱えた京産大だったが、1分にFW⑩小笠原侑生がFKを直接決め、好スタートを切る。近畿大もMF⑦枝本雄一郎が惜しいシュートを放ち反撃。しかし、『走る京産大』は敵陣でボールを奪ってのカウンターで近畿大を苦しめる。そして11分、MF 24 森田勇輝の絶品カーブクロスをFW⑨重松直志が頭で合わせて2-0とリードを広げる。しかし、京産大・古井裕之監督が「早く2点取って、向こうに火がついた」「ウチはドリブルに弱い」と振り返るように、近畿大はDF 42 藤本憲明、FW⑪平石竜真がドリブル突破で仕掛けペースをつかむ。そして43分、近畿大はMF⑧山梨洋希のシュートで1点差に迫り後半に希望をつなぐ。

後半は早々から「頭も胃も痛かった(古井監督)」という場面の連続。55分同点、57分逆転と近畿大・平石竜真が連続ゴール。しかし2分後京産大MF⑪篠崎雄太が混戦から決め3-3と試合は振り出しへ。その後も枝本や交代したMF⑭北井佑季らのドリブルに苦しめられた京産大だが、ここを耐え抜き82分、相手ミスをついた⑩宮脇雄嗣のゴールで再度リード、そのまま激戦を制し第4節以来の勝利に結びつけた。

(文:サッカーライター 貞永 晃二)

近畿大 3 { 1-2 } 4 京産大

得点(アシスト)者

43分 8 山梨

55分 11 平石(7 枝本)

57分 11 平石(10 平原)

得点(アシスト)者

1分 16 小笠原

11分 9 重松(24 森田)

59分 17 篠崎

82分 18 宮脇

第2試合 桃山大 vs 大教大

桃山大 0 { 0-0 } 1 大教大

得点(アシスト)者

69分 22 佐藤(9 森原)

前節阪南大に0-5と惨敗した6位桃山大。インカレ出場の3位以内は遠く、まずは残留圏8位を確保したい。一方、10位大教大は前期上位から順に対戦する日程のため、3連敗スタートだったが、その後は2勝1敗と調子も上向き。今後残留を争う下位との対戦を控えるため、1つでも多く勝ち点を積み上げたい。

一進一退の序盤を経てまずは桃山大がチャンスを作る。MF⑥岡田翔太郎が鮮やかなドリブル突破を見せ、MF 46 井戸環もループで狙う。対する大教大もMF⑮鳥尾広輔のボレーがポスト直撃、MF 24 中村洋介のシュートはGK①北井太陽が防ぐ。しかし、ともにチャンスは少なく勝負は後半へ。

その後半、攻勢に出たのは大教大。CKからDF 30 大庭慧之のシュートがポストをヒット、FW⑨森原慎之佑のボレーはGK正面をつく。そして、ビッグチャンスを外したFW⑩三好洋史が69分、貴重な先制点を演出する。中盤から巧みなドリブルで持ち込み左の森原へ。シュートはGK北井が止めるがこぼれをMF 22 佐藤和馬がブツシュしたのだ。桃山大は 36 小倉慎太郎、58 須ノ又諭と1年生FWを投入し押し込むが、同点はならず、勝った大教大は順位を残留圏8位へと上げた。

(文:サッカーライター 貞永 晃二)

~第7節の風景~

ロスタイムに決勝点!! ◆新中 剛史 選手(びわこ大・4年)◆



11月2日(日)長居第2(関西大一びわこ大)

■ 撮影:フリーライター 久住 真穂 ■